

# 国際協力

2021.7.1

夏号

No.68

JICA 駒ヶ根

## JICA海外協力隊 派遣前訓練再開!



1年ぶりに入所

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2020年4月以降中断されていたJICA海外協力隊の派遣前訓練が、2021年4月より1年ぶりに再開されました。コロナ禍での訓練再開では、昨年から進めてきた感染防止策を講じながら、地域の皆様にご不安を与えないよう、感染予防に万全を期して行って参ります。訓練中の施設訪問受け入れ休止など、ご不便をおかけいたしますが、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

今年度の訓練は以下の感染予防策をはじめ、施設面・運用面でも対策を徹底しながら、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて適切に対応します。

- ・1隊次あたりの訓練生を定員の半分以下へ
- ・従来の訓練期間70日間を45日間に短縮、年間5回の訓練を予定
- ・訓練所入所前にホテルでの14日間の健康観察／リモート型訓練の実施
- ・訓練生およびスタッフの定期的なPCR検査の実施

また、これまで行ってきた訓練所外での課業は、今年度中止とさせていただきます。

訓練再開後はじめての隊次となる2021年度1次隊は、駒ヶ根訓練所に42名、福島県二本松訓練所には58

名の計100名が入所しました。派遣予定国はマレーシア、ラオス、ドミニカ共和国、マラウイ、ナミビア、ジンバブエ、ガボン、ルワンダ、セルビア、タイ、東ティモール、カンボジア、ベトナム、ケニア、ウガンダ、マダガスカルの合計16カ国となっています。

4月28日に行われた入所式は、所内関係者のみで行われました。駒ヶ根市の伊藤市長、駒ヶ根協力隊を育てる会の高坂名誉会長、有賀会長に駒ヶ根市役所よりオンラインで参加いただき、「体調に留意しながら、45日間の訓練を頑張ってください」と激励いただきました。

本来であれば昨年訓練を受ける予定だった訓練生の皆さん、コロナ禍で延期になった後もその熱い想いを絶やさず、1年越しに訓練を行っている姿に胸が熱くなります。訓練所スタッフ一同、その想いに応えられるよう、コロナ禍での訓練を精一杯サポートしていきます!



駒ヶ根市伊藤市長よりオンラインで激励の言葉

### 2021年度派遣前訓練予定日程

今年度の訓練は以下日程の予定となっております。

2021年度1次隊：4月27日～6月10日

2021年度2次隊：6月29日～8月12日

2021年度3次隊：9月7日～10月21日

2021年度4次隊：11月9日～12月23日

2021年度5次隊：2022年1月25日～3月10日

# 1年ぶりの訓練再開!

## 2021年度1次隊、コロナ禍での訓練、仲間との絆。

コロナ禍の中、はじめての訓練となった2021年度1次隊。

いろいろな規制がある中でも、充実した訓練生活を送ってもらいたいという思いから、スタッフ・訓練生が委員となる『新型コロナウイルス感染症対策検討委員会』を立ち上げ、お互いが意見交換できる場を設けるとともに、状況に応じ運用の改善を行ってきました。訓練生も様々なアイデアを出しながら、「できないことを考えるのではなく、この状況をどう工夫して乗り越えていくか」という視点を持ち、根気強く取り組む姿が見られました。



オンラインを活用し、3密回避

通常時の訓練とは違い、いつもは楽しい笑い声が響く食堂での食事も黙食となり、また45日間という短期間の訓練ではありましたが、訓練生同士の絆はいつにも増して強いものになったことが感じられました。

6月10日に行われた修了式では、隊員を代表しルワンダ共和国派遣予定の伊藤隼人さん(愛知県出身、職種:体育)が答辞を行い、「ここで出会えた



修了式、隊員代表の答辞

42名が、たとえ派遣が遅くならうとも、任国の地に足をつけ、活動していけることを心より信じております」

と意気込みを語ってくれました。

そしてコロナ禍の中、共に励まし合い、訓練を乗り越えた同期の仲間たちへ「皆さんはかけがえのない存在です。進む道は違えども、心は共にあります。また必ず会いましょう。その時は思い切り肩を組んで語り、笑い合いましょう」とメッセージを送りました。

コロナ禍での訓練を見事に乗り越え、隊員として新たなスタートを切った42名の皆さん、本当にお疲れ様でした! これから始まる2年間のストーリー、訓練所スタッフ一同から応援しています!



体力維持講座

## 訓練生インタビュー

### 応募したきっかけを教えてください

▶学生時代から海外に興味があり、実際に海外へ行った際、日本とは異なる多文化に触れて感動し、価値観がガラッと変わりました。看護師になり日々の生活に追われ、海外への気持ちが徐々に薄れていましたが、改めて海外に行きたいという気持ちを思い出し、看護師として海外で活躍できるJICA海外協力隊に応募しました。

### コロナの影響で派遣が延期され、連絡がくるまでどうでしたか?

▶正直かなり迷いました。去年の今頃(5月)迷っていましたが、挑戦しなかったら後悔するという気持ちが強くなり、看護師として働きつつガボンに関する情報を調べ、入手していました。

### 訓練について

▶さまざまな職種、異なる年代の方もいて、出身もそれぞれですが、同じ国・日本人でも異文化空間を既に感じており、

## 2021年度1次隊 小山ありささん

看護師 / ガボン共和国派遣予定 神戸市出身

とても刺激的です。他の人と関わることで、自分の性格や価値観を再認識することができています。

### 活動内容と帰国後のプラン

▶ガボン共和国のランバレネ市にある病院で、主に母子保健をメインに活動します。前職がNIC(新生児集中治療室)で、赤ちゃんや家族のサポートをしてきた



ので、自分の知識を活かして活動したいです。帰国後は、二年間で自分の気持ちも大きく変わるとは思いますが、現場で働くか、国際的なことをメインで働くかを考えています。今、フランス語も勉強しているので、活用できればと思います。Je vais faire des efforts!

駒ヶ根訓練所の派遣前訓練では、講義全体の約65%を語学の勉強に費やします。訓練生が一番多くの時間を一緒に過ごす、語学講師に聞きました!

第4回目は、スリランカ出身のお二人です!シンハラ語講師のシリパーラ・ウィラコーン先生と、英語講師のアーチャライ・テヴァラジャ先生にお話をお聞きしました。

—シリパーラ先生は、いつから訓練所で教えていらっしゃいますか?

S: 1999年4月ですね、駒ヶ根市に引っ越してきたのが2003年になります。その前は東京でシンハラ語の講師をしていました。スリランカでよく見ていた映画「おしん」のイメージで日本に来たのですが、最初に住んだのは東京のお茶の水で、おしんがない!と思いました。

—駒ヶ根の第一印象は?

S: 長い間東京にいたので、はじめて来たときは何もないところだなと思いました(笑)今は駒ヶ根で成長した子どもを通して、家族のような友達ができ、地域の人たちとの関係も良好で、住みやすい場所だと感じています。

—自己紹介をお願いします!

A: 2017年に留学生として来日し、東京農業大学で4年間学びました。その間に英語とタミル語(スリランカ北部の言語)を教えていました。大学卒業後は、国連やWHOも目指しましたが、縁があり駒ヶ根訓練所に来ました!

—日本に来たきっかけは何かですか?

A: スリランカの学校では、小さい頃から社会科の授業で日本について学ぶ機会があります。日本人の勤勉性や相手を尊重する心、最先端のテクノロジーなどを知り、いつか日本に行ってみたいと夢を描いていました。

—日本に来ることが夢だったのですね!日本のどのところが好きですか?

A: 周りの人の事を考える「思いやり」の精神が、本当に素晴らしくて大好きです。

—逆に「ここがヘンだよ!にほん!」ってところはありますか?

A: 来日当初は、日本語が全く話せず、東京のスーパーで買い物に困っていて、日本人に話しかけたら逃げられました!(笑)外国人にビックリしたのですかね…。日



シリパーラ・ウィラコーン先生

—駒ヶ根で好きな場所がありますか?

S: 「こまくさ橋」ですね。いつ訪れても四季を感じることが出来る場所で、知人が駒ヶ根に来た際によく連れていきますよ。

—訓練所でシンハラ語を教えるやりがいは何ですか?

S: 多くの訓練生は、ほぼゼロからシンハラ語を勉強しますが、短い期間で読み書きを覚え、言葉を交わすようになります。それを間近でサポートすることに非常にやりがいを感じています。また、様々なバックグラウンドを持つ訓練生から学ぶことも多いです。訓練生の成長と同時に、私たちも成長していると思えることが、訓練所で講師を続けている理由ですね。

—最後に、これから協力隊を目指す人へのメッセージをお願いします。

S: 協力隊は何かにチャレンジしたいと考えている人にはもってこいの場所です。やれば出来る!そしてやり続けることがとても大事だと思います。

シリパーラ先生ありがとうございました!

本はテクノロジーや経済が発展している割に、外国人との交流が極端に少ないなと感じます。

—訓練所での語学授業はどうですか?

A: コロナ禍で大変な中、強い志を持って入所した訓練生に対し、毎日自分の100%で教えています。私は「誰かのために何か力になりたい」という気持ちが強いので、目の前で生徒の成長を毎日感じられることが本当にやりがいであり、幸せです。

—最後に訓練生へのメッセージをどうぞ!!

A: 「Inspire and make a difference wherever you go」です!!特に発展途上国の子どもたちは、日本に対して素晴らしいイメージを持っています。本当に小さなこと一つでもいいので、日本人としてポジティブな影響を与えてください。訓練生の皆さんなら、現地ではどんな事でも、影響や感動を与えられるはずです!がんばってください!



語学授業の様子

アーチャライ先生ありがとうございました!

## JICA海外協力隊の経験者で、4月より駒ヶ根市の地域おこし協力隊に着任された山田理恵さん。自己紹介していただきました！



算数授業時の写真

兵庫県出身の山田理恵です。2019年度1次隊(小学校教育)としてセネガルの小学校2校で算数・体育分野を中心に活動していました。

算数分野では、足し算・引き算の基礎学力定着に向けたアクティビティを提案し、実施前後の学力調査を行うことで、「楽しみながら学ぶ」という視点も持ってもらえるよう考えました。体育分野では、過去に隊員と運動会を経験している学校に助言等を行い、今後本格的に一緒に進めていこうというところでした。

多くのことを考え、感じる中で、新型コロナウイルスの影響で帰国となり悔しい思いもしましたが、ご近所

さんと大皿を囲んでみんなで食べるランチや、甘いお茶をみんなで飲んでゆっくりする、そんなセネガルタイムは心地よかったです。

帰国後は、教員として小学校内外での多文化共生や国際理解教育に関わっていく中、学校現場以外でも学びの場に携わりたいと思い、駒ヶ根市の「地域おこし協力隊」に申し込みました。今は、「学びのプログラム」で計画している地域資源の活用や教育旅行、ユース世代を対象とした課題解決Labs(こまがねリビングLabs)の実施準備が進んでいます。厳しいコロナ禍ですが、安心安全に行えることを考え、地域の方や職員の皆さんと一緒に実施していきたいです。



駒ヶ根市のぱとなにて

高森町から駒ヶ根訓練所にお越しいただき、訓練所に新しい風を吹き込んでくれた遠山景太さんより、訓練所での活動や思い出を報告いただきました。

## 「2年間の研修出向を振り返って」 高森町教育委員会事務局 遠山 景太



学生の皆さんへ、訓練所や協力隊の説明

2019年4月から駒ヶ根訓練所に出向し、研修員として2年間勤務しました。駒ヶ根訓練所に関わる皆様には、大変お世話になりました。

2020年3月、新型コロナウイルス感染拡大の影響で協力隊全員が帰国し、派遣前訓練も延期となりました。とても衝撃的な出来事でした。それまで当たり前のようにできていたこと、これからやろうと思っていたことが「できない」状況に不安と焦りが募りました。

形が変わっても、地域住民の皆さんに協力隊事業や駒ヶ根訓練所の価値を知ってもらう機会を作り続けたいという思いから、オンラインでの語学体験プログ

ラムを企画して実施しました。参加者が語学講師と一緒に楽しそうに言葉を学ぶ姿を見て、とても嬉しくほっとしたことを今でも覚えています。「できない」と諦めるのではなく、「今、できる」方法を考えること。参加する方のことを思って、前向きに動き続けること。たくさん悩みながらも、大切な教訓を得ることができました。

4月から高森町に戻り、教育委員会事務局で社会教育担当を務めています。出向期間中に得た学びや繋がり、JICAが持つ国際協力の知見や人材育成ノウハウを高森町のまちづくり、ひとづくりに活かせるよう取り組んでいきます。



出前講座時の様子

# 駒ヶ根訓練所長交代のご挨拶

## 離任のご挨拶 (青年海外協力隊事業に期待すること)

元所長 清水 勉

青年海外協力隊事業の魅力は、①個人が国境を越えてボランティア活動に参加できるという夢、②協力現場を自分でプロデュースできる醍醐味、③協力の過程で人々と育む友情、④自分の成長実感の手ごたえ、と表せるでしょうか。1974年に製作された映画アサンテサーナでは、調整員の妻役を演じる八千草薫に、主人公の隊員を「トンネルの真ん中を掘る人」と表現させ、異文化の中で一人もがき苦しみながら信頼を得ていく隊員像を描いており、こうした隊員活動の在り方は今後も続いていくでしょう。

一方で、これからは隊員活動に多様なアクターが参加する形態が増えていくと思います。隊員が活動の意義をアピールし、賛同する人が技術的・資金的リソースを提供してダイナミックな活動に発展するようなパートナーシップ型の活動によって活動成果が増大すれば、さらに多くの方が本事業に魅力を見出すことになるでしょう。「協力隊経験の社会還元」も、その時間軸を「帰国後」から「派遣中」に前倒しすれば、社会にも一層大きなインパクトを与えられると思います。コロナ禍で進んだリモートワークや

クラウドファンディングは、そうした活動展開のハードルを下げられることでしょう。

そして、日本の協力隊が誇る充実した派遣前訓練も、その時間軸を派遣中にまで延ばして、訓練所が多様なリソースとのネットワークのハブになり、開かれた学び合いの場として発展していったらいいと思います。「世界に開かれた窓」である訓練所を通じて、市民の皆さんが協力隊員と共に活動する世界を願っています。皆さん、たいへんお世話になりました。いつか再会する日までお互い元気で頑張りましょう!



## 着任のご挨拶

新所長 小林 文通

信州の皆さん、はじめまして。5月から駒ヶ根青年海外協力隊訓練所(JICA駒ヶ根)の所長に就任した小林と申します。私の母方の実家が長野市内にあることから小学生の頃はほぼ毎年信州を訪れており、この土地にはとても深い愛着を持っています。今は第二の故郷である長野県に暮らすことの喜びを、日々噛みしめているところです。

JICA駒ヶ根では、4月末からJICA海外協力隊の派遣前訓練を再開しています。1年振りの訓練ということで、スタッフ一同、新型コロナウイルス対策に十分留意しながらも、訓練が再開されたことを嬉しく思っているところです。一人でも多くの候補生にJICA海外協力隊員としてここ駒ヶ根の地から世界に羽ばたいていただけるよう、しっかりと訓練所の役割を果たしたいと思います。

JICA駒ヶ根は設立されてから今年で42年になります。これまでこの訓練所から2万人以上の協力

隊員を輩出してこられたのは、ひとえに地域の皆さんからのご支援あつてのもの感謝しております。今後はこれまで以上に地域の皆さんと結びつきを深めながら、協力隊員の訓練と地域の活性化を目指して精進してまいりたいと思いますので、ご指導のほどをよろしくお願い申し上げます。



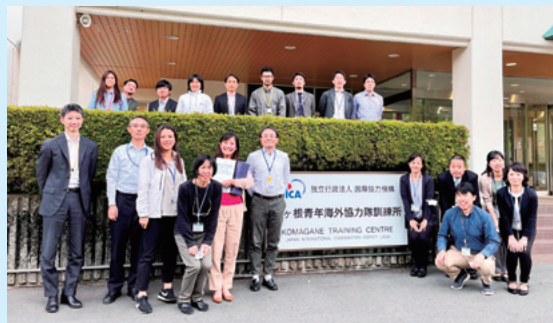
## JICA海外協力隊 募集再開のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の拡大により、見合わせとなっていたJICA海外協力隊の募集が再開となり、春募集が5月20日(木)～6月30日(水)で行われました。たくさんのご応募ありがとうございました!次回は11月から秋募集を予定しております。

詳しくはJICA海外協力隊HPをご覧ください。  
<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>

また、駒ヶ根訓練所では協力隊応募について、派遣前訓練、語学に関する事など、ご質問やご相談を随時

受け付けております。是非お気軽にご連絡ください。



協力隊経験者の訓練所スタッフがお答えします!

### 2021年度1次隊(2名)

## 長野県出身JICA海外協力隊員

行ってきます!!

青年海外協力隊



小林 貴史 さん(長野市) 派遣国: ガボン 職種: PCインストラクター  
ガボン共和国の首都リーブルビルにある技術高等学校でITリテラシー向上を目的としたICT教育に携わる予定です。現地で暮らす人々から多くを学び、日本の文化も紹介できたらと思っています。互いの国がより近い関係に感じられるような活動ができたらいいですね。アフリカで暮らす彼らに会えるのを楽しみにしています。On n'a qu'une vie.

青年海外協力隊



増澤 尚享 さん(塩尻市) 派遣国: カンボジア 職種: サッカー  
私はSPORT FOR TOMORROWの活動に参加したことがきっかけで、JICA海外協力隊を志望しました。カンボジアではサッカーは熱狂的な人気スポーツであり、技術指導や普及活動を行い、誰もがスポーツを楽しめる環境の実現に協力したいです。

## JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2021を開催します!

今年のテーマは「私たちと地球の新しい未来」

地球上に暮らす私たちが向かう未来に向けて、「自分と地球」とのつながりを考え、感じたこと、行動したことについての作品を期待しています。

### ■募集期間:

2021年6月7日(月)～2021年9月11日(土)

応募作品は自分の考えや体験等をエッセイとして書いたもので、他のコンクール事業等で発表してないものとします。

上位受賞者は、海外研修に参加できます!  
(※現地の状況等によっては、延期もしくは中止となる場合がございます)

中学生・高校生の皆さんからの多数のご応募、心からお待ちしています!

応募の詳細情報はこちら▶



## スタッフ紹介



ボランティア事業理解促進・訓練支援 **越智 陽水**  
4月から駒ヶ根訓練所で勤務しています。出身は、愛媛県松山市で駒ヶ根での生活にもだいぶ慣れてきました。毎朝通勤時に見ることのできる、中央アルプスからパワーを貰っています。駒ヶ根訓練所の魅力の発信と世界へ飛び立っていく訓練生の力になれるように頑張ります。



訓練担当 **中川 綾季**  
私自身は、10年程前に青少年活動隊員としてエジプトへ派遣されていました。今度はサポートさせていただく形で、青年海外協力隊に携われること、大変うれしく思っています。「一期一会」皆様との出会いに感謝し業務に精進して参ります。よろしくお願いたします。



訓練担当 **森 詠司**  
2018年度1次隊でウガンダに派遣されていました。緊急事態宣言の影響で任期終了間際で帰国したものの、もう一度アフリカに戻って働きたいと思い、4月より駒ヶ根訓練所で勤務しつつ、ボランティア調整員になるべく日々励んでいます。

発行 独立行政法人 国際協力機構  
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15  
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336  
E-mail [jicakjv@jica.go.jp](mailto:jicakjv@jica.go.jp)  
<https://www.jica.go.jp/komagane/index.html>

JICA駒ヶ根 facebook ページ

<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン

配信希望の方は [jicakjv@jica.go.jp](mailto:jicakjv@jica.go.jp) までメールでご連絡ください!